

令和2年度第6回移動市長室会議録

筑紫野市青少年指導員会

～地域で見守る子どもの未来～

- 1 日時：令和2年11月25日（水曜日）14時～15時30分
- 2 場所：生涯学習センター 学習室6
- 3 出席者：

『筑紫野市青少年指導員会』 12人

萩尾会長、ほか11人

『筑紫野市』 9人

藤田市長、長澤教育部長

檜木生涯学習課長、森田生涯学習課係長、田中生涯学習課主任、野田生涯学習課主事
亀井秘書広報課長、山崎秘書広報課係長、渡辺秘書広報課主事

- 4 内容：懇談

○（事務局） 皆様、こんにちは。本日はお忙しい中にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

移動市長室は、市民の皆様の声を市政に生かすことを目的に、月1回程度市長が出向きまして、団体の皆様、またグループの皆様と一緒に語り合うものです。

本日の懇談の内容につきましては、会議録を作成して公表いたします。また、今撮影しております写真や動画につきましても、市のホームページや広報紙に掲載をいたしますのでご了承いただきますようお願いいたします。

また、コロナの対策といたしまして、皆さんも今マスクをつけておられますけれども、マスクをつけながら、換気に注意をしながら実施いたしますので、ご協力いただきますようお願いいたします。楽しく有意義な時間にしたいと思っております。

それでは、令和2年度第6回、通算でいいますと第105回となります移動市長室を、筑紫野市青少年指導員会の皆さんと、「地域で見守る子どもの未来」をテーマに始めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

初めに、藤田市長がごあいさつをいたします。

○（藤田市長） 皆さん、こんにちは。

本日は、司会者が申し上げましたとおり、本年度6回目、通算しますと105回目の移動市長室を行うことになりましたが、ここに至るまで、筑紫野市青少年指導員の皆さんには、いろいろと準備その他、ご尽力を賜りましたことにまず御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、青少年指導員会でございますが、平成23年9月29日の第2回移動市長室で一緒にさせていただいたことがございまして、今回で2回目となるわけです。萩尾会長をはじめ青少年指導員の皆さんには、日頃から青少年の非行防止や健全育成にご尽力を賜っておりますことに心から感謝申し上げます。

本年度は、ご案内のとおり、新型コロナウイルス感染防止のために、小中学校の休校あるいは各種イベントの中止など、子どもたちを取り巻く環境とともに、青少年指導員活動にも大きな影響が出たのではないかと思っております。青少年指導員の皆さんには、このようなきだからこそ、改めて登下校の見守りや地域のパトロール活動などに力を注いでいただいていると伺っております。

本日は、校区ごとの取り組み、青少年指導員の役割、コロナ禍の中での活動、今後の方向性などを伺いながら懇談させていただくことを大変楽しみにしているところです。皆さ

ん方の忌憚のないご意見、また思いを聞かせていただき、今後の市政運営に、また青少年の健全育成の行政としての営みに役立てたいと思っております。限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見を拝聴することができれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○（事務局） ありがとうございます。

では、団体代表あいさつということで、萩尾会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○（萩尾会長） 皆さんこんにちは。筑紫野市青少年指導員会の会長をしています萩尾です。

公園などの木々も色づき始め、秋深まる中、藤田市長をはじめ市役所の関係者の皆様には、日頃から青少年指導員活動に対しましてご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。また、このたび第105回移動市長室の対象に青少年指導員会を選んでいただきましたことを重ねて御礼申し上げます。

私たち青少年指導員は、パトロールやあいさつ運動など、子どもたちとの触れ合いを通じて、青少年の非行防止および健全育成のために日々活動しております。本日は各小学校区から1名ずつ参加させていただきまして、「地域で見守る子どもの未来」をテーマに、現在の活動や今後の取り組みなどにつきましてお話しさせていただき、今後の活動に生かしてまいりますので、ご指導、ご意見などをいただけますと大変ありがたいと考えております。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。

それでは、自己紹介に参りたいと思います。まず、市のほうから行いたいと思います。私は本日の司会進行を務めさせていただきます秘書広報課長の亀井と申します。よろしくお願ひいたします。

○（長澤教育部長） 筑紫野市教育委員会教育部長をしています長澤と申します。

○（檜木生涯学習課長） こんにちは。教育部生涯学習課長をしております檜木と申します。

○（森田生涯学習課係長） 生涯学習課生涯学習推進・青少年担当係長をしております森田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○（生涯学習課） 皆さん、こんにちは。同じく生涯学習課の田中と申します。

○（生涯学習課） 同じく生涯学習課の野田と申します。よろしくお願いいたします。

○（秘書広報課） 皆さん、こんにちは。移動市長室を所管しております秘書広報課広報広聴担当係長の山崎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○（秘書広報課） 同じく秘書広報課広報広聴担当の渡辺と申します。

- （事務局） それでは、団体の皆様からもお願いしたいと思います。お名前と小学校区などをご紹介いただければと思います。もう一度会長からお願いいたします。
- （萩尾会長） 私は青少年指導員会の会長をしております萩尾と申します。
一昨年までは天拝小校区の塔原行政区の区長をしておりました。天拝小校区はまとまっておりますが、これから一層、筑紫野市青少年指導員会が回っていきますように頑張っていけますので、皆さんよろしく申し上げます。
- （小田副会長） こんにちは。二日市北小校区の副会長をさせていただいております小田と申します。行政区は京町です。萩尾会長の下でびしびし鍛えられてここに至ったわけです。よろしく申し上げます。
- （日永田副会長） こんにちは。吉木小学校区の青少年指導員を担当しております日永田と申します。行政区は大石です。これからもいろいろ頑張っていきたいと思いますので、ご指導のほどよろしく申し上げます。
- （原口事務局長） 山家小学校区の原口と申します。どうぞよろしく申し上げます。青少年指導員会の事務局長を仰せつかっております。皆さん方のご協力でここ数年間非常に充実した活動ができましたことに感謝をしています。
- （井上会計） こんにちは。阿志岐小学校区を担当しております井上でございます。青少年指導員会では会計を担当しております。どうぞよろしく申し上げます。
- （永裕会員） こんにちは。原田小校区の永裕と申します。まだまだ頑張りが足りないかなと思っています。しっかり頑張りますので、よろしく申し上げます。
- （大庭会員） 天拝小校区の大庭と申します。公民館主事や消防団等もやっています。今後ともよろしく申し上げます。
- （古瀬会員） 山口小校区、古瀬です。5人で頑張っています。ありがとうございます。
- （中川会員） 筑紫小学校区の中川でございます。今年は5人のうち4人が新しい方に変わりましたので、また頑張っていきたいと思います。よろしく申し上げます。
- （長野会員） こんにちは。二日市東小学校区青少年指導員の長野と申します。今後とも頑張っていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。
- （井手会員） こんにちは。筑紫東小学校区の井手と申します。これからも頑張っていきますので、どうぞよろしく申し上げます。
- （入江会員） 二日市小学校区の入江と申します。一番最近入ったんですけど、ここにいます。よろしく申し上げます。

○（事務局） 皆さんありがとうございました。

では、早速ですけれども、皆様の活動報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○（萩尾会長） それでは、活動報告を始めさせていただきます。

私たち青少年指導員は、未来の筑紫野市を担う子どもたちを育むため、地域ぐるみで子どもたちをしっかりと見守っております。そのため、本日のテーマを「地域で見守る子どもの未来」とさせていただきます。分担して報告させていただきますので、最後までよろしくお願いいたします。

初めに、成り立ちを紹介します。青少年指導員制度は、内閣府で実施されていた青少年を非行から守る全国強調月間、現在の青少年の非行・被害防止全国強調月間を背景に始まったもので、筑紫野市青少年指導員会も平成4年に発足して29年目を迎えました。

平成23年9月の第2回移動市長室では、課題であった地域での人数の偏りを小学校区5人以内の体制へ変更していただき、円滑な活動への後押しをしていただきました。ありがとうございました。

日常的には子どもたちの見守り活動やあいさつ運動など地域に根差した活動を行い、最近では、学校や警察だけでなく、コミュニティ運営協議会の防犯部会と連携することも多く、活躍の場を広げています。

これからは三つの項目について報告させていただきます。一つ目は青少年指導員会の目的、二つ目に現在の活動内容について、最後にこれからの活動について報告いたします。

青少年指導員会は、青少年の非行防止と健全育成を推進することを目的に活動しています。その目的を達成するため、指導員の知識や技能の向上を図り、校区間の連携を緊密にするだけでなく、青少年に関わりがある団体との協力体制を確立することが重要だと考えています。

次に、活動内容について説明いたします。青少年指導員会の活動内容は大きく四つに分けられます。

まず、非行防止の活動。これは日常的に行っているパトロール、見守り活動になります。

次に、健全育成の活動です。筑紫小校区のフットベースボール大会、夜須高原青少年自然の家で行う山家小校区の宿泊体験があります。

関係団体との連携は、関係団体として少年補導員会や青少年育成市民会議などがあります。特に、少年補導員とは、夏・冬の一斉パトロールや観月会、成人式での見守りを一緒

に行っています。

研修や会議については、青少年指導員会主催の教育講演会や視察研修があり、子どもたちを見守る上での基礎的な知識や現場を知ることで見識を深めています。

ここからは活動を掘り下げていきます。

パトロール方法については、一般的に、歩いて見回るだけでなく、車を使う青色防犯パトロール、散歩やジョギング途中に行う、ながらパトロールなどがあります。パトロール場所は、街灯が少ない道路や河川、たまり場になりやすい公園やトンネル、イオンやゆめタウンなどのフードコートやゲームセンターなどを見回ることもあります。ほかにも子どもたちの登下校時の見守り、始業式や卒業式、運動会でのパトロールがあります。

活動回数は校区で異なりますが、平均して月2回程度実施しています。全体の活動回数は、平成29年度は500回、平成30年度は658回、令和元年度は574回となっております。今年は新型コロナウイルスの関係で中断時期がありましたが、おおむね6月から再開しております。

次に、天拝小校区の活動について大庭会員からご説明します。

○（大庭会員） 天拝小校区の大庭です。天拝小校区の活動を報告いたします。

私たち天拝小校区は、青色防犯パトロール車で月2回のパトロールを実施しています。昨年度は開始時刻を20時としていましたが、柔軟な活動を目指し、今年は時間を決めずに、みんなが集まれる時間ということで実施をしております。パトロール場所については、天拝小校区にあります天拝公園、天拝小学校周辺を重点的に行っております。

夏、冬の一斉パトロールの際は、少年補導員や先生、PTA、コミュニティ運営協議会、筑紫野警察署といった関係者約50名とパトロールを行っております。

今後も、学校、家庭、地域が協力し情報共有を図りながら子どもを見守る体制づくりを行い、活動内容の一層の充実を図るとともに、今後も青少年の健全育成に取り組んでまいりたいと思っています。

写真は天拝公園の周りで、1枚目は天拝小学校です。必ず天拝小学校と天拝公園を回るようにしています。

では次に、阿志岐小校区について井上会員からご説明いたします。

○（井上会計） 阿志岐小学校区の井上です。

阿志岐小学校区は、ご存じのとおり、自然あふれる、言葉は悪いですけど、何もない地域でございまして、スーパーもコンビニも全くありません。子どもたちは本当に自然あふ

れる中で遊んで回っております。

巡回パトロール等も行っておりますが、暑い夏が毎年続いておりまして、特に夏場の川での遊びは見ていて非常に危険な場合もございます。以前は頭ごなしに子どもたちを叱っておりましたが、現在では、子どもたちはなぜ泳ぐんだろう、この暑い中泳ぐのは当たり前じゃないかというようにこちらの考えも変わってきてまして、じっと見守って、危ないときには注意するというような姿勢に変わっております。

自然あふれる中で子どもたちが伸び伸びと過ごせるように、これからも見守っていきたいと思っております。以上で報告を終わります。

次に、筑紫東小学校区の井手会員からの報告になります。

○（井手会員） 筑紫東小学校区の井手です。

筑紫東小学校では、交通指導とあいさつ運動を毎日実施しております。通学路には、交通量が多い大きな道路があり、また坂道になって見通しがよくないところがあります。そのため、小学校やサニー前の横断歩道に分散して見守りを行っております。

例年は小学校で交通安全教室が行われていますが、今年はコロナで中止になったため、私たちが1年生を対象として交通安全指導を行っております。

画面はちょうど雨期のときです。登校時の見守りは先生や区長さんと一緒に活動することが多く、雨、風関係なく子どもたちをみんなで見守っています。

今年は新型コロナのこともあり、学校が始まったときは、あいさつをしても、子どもたちはおじぎをやるだけや聞こえるか聞こえないかわからないぐらいの声しか出ていませんでした。今では、顔を覚えてもらったのか、元気な声であいさつをしてくれることも多くなりました。

次は、原田小学校区の永裕会員からお願いします。

○（永裕会員） 原田小校区の永裕と申します。よろしくお願いします。

私たちは、毎週水曜日朝7時から8時半まで、筑紫野南中学校前の横断歩道と原田小学校近くの遊歩道で交通指導とあいさつ運動を行っております。

小学校の登校時間は7時半から8時頃が非常に多くて、校長先生も来ていただいて朝のあいさつ運動をしております。今では子どものほうから元気なあいさつ、「おはようございます」という声が聞かれるようになり、きちんと礼をする、おじぎをする子どもも増えてきました。

これは筑紫野南中学校前の横断歩道です。中学校の登校時間は、部活動を行っている生

徒は7時から7時半頃に集中して来ます。部活をしない生徒は8時から8時20分頃に集中して登校しております。自転車の通学もありますので、ぶつかったりしないように声をかけています。また、混んできますと赤になっても渡り切れない場合が出てきますので、そのときには声をかけて早く渡るようにしております。

では次に、健全育成事業について中川会員からご説明いたします。

○（中川会員） 筑紫小学校区の中川です。

健全育成事業というのは、体験活動を通して子どもたちの心身の健全育成を図る事業になります。また、大人も関わることで大人同士の交流が生まれ、多様な人材が活躍できる機会となっております。

筑紫小学校区では、筑紫小学校区フットベースボール大会を地域の方や筑紫野市の力を借りて実施しております。今までに27回開催しており、昨年度は12チーム140人が参加をしております。小学生の活躍の場、親子の交流、保護者相互の親睦など、地域ぐるみの青少年の健全育成という目的のために開催しております。

このフットベースボール大会というのは近隣でも珍しく、週休2日制の導入を機会に青少年指導員が企画運営の中心となって始まりました。毎年、お忙しい中、藤田市長にもお越しいただき、ごあいさつをいただいているところです。ありがとうございます。

1年生から6年生までの子どもたちが参加します。その活発な姿を見ると、大人も元気もらえるので、毎年私も楽しみにしております。

次に、山家小学校区の活動について原口事務局長からご説明いたします。

○（原口事務局長） 事務局長を仰せつかっています原口でございます。

山家小学校区では、毎年、夜須高原青少年自然の家で、山家小学校高学年を対象にした宿泊体験を実施しております。今説明があった、フットベースボールと同じ時期から開催しましたので、27年間、この事業を続けております。運営については、指導員だけでなく、保護者や少年補導員、山家コミュニティなど多くの方々の力を借りて実施しております。この事業を通して、子どもたちは基本となる生活習慣を獲得し、大人も子どもと一緒に活動することで信頼関係を築いたことが大きな成果となっております。

画面は林間ボブスレーです。子どもたちが一番楽しみにしている体験で、かなりの速度と長さがあります。子どもたちは何度も何度もボブスレーをするために山を登っては下っていきます。

今年はコロナのため実施できませんでしたが、今後も山家コミュニティ運営協議会が主

体となって継続する予定です。私たちも引き続き関わり、コミュニティの枠組みの中で、より多くの大人の目で子どもたちを見守っていきたいと考えています。

次に、他団体との連携について古瀬会員からご説明をお願いいたします。

○（古瀬会員） 山口小学校区の古瀬です。

一緒に活動する機会が多い団体として警察署委嘱の少年補導員があります。少年補導員とは観月会、成人式など市のイベントでも一緒にパトロールをしています。

ほかにも、青少年育成市民会議や青少年連絡会には代表者を派遣し、積極的な情報交換、情報共有を図っています。特に、青少年連絡会では、学校、PTA、イオンやゆめタウンなどの商業施設と情報共有を行い、子どもたちの状況をいち早く確認しています。

夏・冬休み前に行う夜間補導パトロールは、少年補導員、学校、PTA、駐在所、市役所、青少年指導員と一緒に活動しています。昨年度は夏・冬合計で388人の参加がありました。

パトロールをしていて、最近では、子どもたちが集まる危ない場面を見ることは少なくなりましたが、筑紫神社のおよどなど地域のお祭りの際には若い子が多く出てきています。夏・冬休み前に子どもたちの気を引き締めるだけでなく、見守り活動をしている我々大人の交流のためにも、今後も参加していきたいと考えております。

観月会では、青少年指導員を含め関係者が約90人集まり、観月会が終わる9時頃からパトロールを行い、特に若い世代に帰宅を促しています。パトロール場所は、天拝公園はもちろん、武蔵のセブンイレブンやドン・キホーテを注意して見回っています。

昨年度は迷子が2件あり、捜索に当たりました。すぐに発見されましたが、あれほどの人出ですので、小さい子どもには特に注意しているところです。騒いでいる子どもたちに声をかけると、意外といい返事で、言うとおりに帰ってくれます。

成人式では、毎年800人以上の新成人が文化会館に集まりますので、我々青少年指導員も20人が出席し、少年補導員や主任児童委員の人たちと外の見回りを行っております。特攻服を着た団体も年を経るごとに少なくなっております。やんちゃをする成人も少なくなってきたように思います。地域で子どもの頃から知った顔を見かけると、向こうにも覚えがあるようで、あいさつをしてくれることもあります。これは非常にうれしいことです。

次に、近年の補導人数について入江会員からご説明いたします。

○（入江会員） 二日市小学校区の入江です。

グラフをご覧ください。平成27年から令和元年までの青少年の補導人数になります。

赤の太線が筑紫野市になります。福岡県警によりますと、筑紫野市の補導人数は年々減少しており、令和元年では18人となっています。また、筑紫地区でもおおむね減少傾向のようです。しかし、インターネット、SNSの書き込みなどが原因の事件が増加しており、直接目に触れない犯罪が増加しています。二日市地区でも、「スマホと子どもたち」という題材で運営協議会が主体となってPTA向けに研修を行いました。

次に説明します研修、会議についても、我々指導員が今までの指導方法だけに頼るのではなく、日々研さんする必要性を感じております。

次は、日永田副会長からご説明申し上げます。

○（日永田副会長） 吉木小校区の日永田です。私からは研修と会議、地域連携についてご説明いたします。

青少年指導員会では、奇数月に各小学校区の幹事が集まる幹事会を実施しています。この会議では、校区間の情報交換、行事の確認、また主催事業の教育講演会、視察研修などの内容を決めています。

これは教育講演会の様子です。青少年指導員が主体となり、小中学校やPTA、関係団体にも声かけをさせていただき、昨年度は「大切なあなたを守るために～サポートセンターで出会う子どもたち パートⅡ～」というテーマで実施し、108人の参加がありました。受講者からは、「今後、子どもや家族としっかり向き合っていきたい」「心に響く内容でした」「感動し、涙しました」といった感想をいただきました。先生からは、SNSを通じての援助交際の事例とその後の関わり方について学びました。

このような学習機会については、指導員だけではなく地域の方々の学ぶ場として、今後提供していきたいと考えています。

次に、視察研修についてご説明いたします。昨年度の視察研修は、長崎県佐世保市にある佐世保学園に行き、見識を深めることができました。園内では、教科指導や体育指導のほか、生活指導や職業指導が実施されていることを教えていただきました。

写真は、体育指導の一つであるカッター訓練の様子です。この施設は海に面しており、その自然環境を生かしながら体験活動を通じて矯正していることが大変勉強になりました。

施設の中には子どもたちの絵や陶芸作品が飾っており、学習環境も通常の学校と変わらないように感じました。

この視察研修で気づいたことは、特別なことは必要なく、子どもたちをしっかり見守り、社会に出ていける道筋を子どもたち自身が見つける、その手助けをこの施設がしているの

ではないかということです。このことは青少年指導員の活動にもつながることだと実感いたしました。

次に、地域連携についてです。私は、吉木小学校のよしきっ子協議会、筑紫野中学校では安全支援部会に参加しています。また、御笠コミセンでは青色パトロール隊に入っており、青少年指導員としての役割を皆さんと共有しております。

吉木小では、御笠コミセンと共同で、夏休みの思い出づくりとしてそうめん流しと工作教室を、年末には3年生を対象に新年を迎えるためのミニ門松づくりを指導しています。

筑紫野中では、PTAと一体となり、体育祭、卒業式等の行事がスムーズに進行するための校内と周辺の見回り、年末には門松づくりを行っています。

吉木小校区での巡回は、御笠パトロール隊に所属し、青パトで巡回を行い、地域の犯罪抑止に努めています。また、吉木小学校の児童の登下校時の見守り、あいさつ運動等、地域の方と一緒に活動しています。

このように地域と一体となった連携、つながりが青少年育成に大きく寄与していると感じています。

最後になりますが、これからの活動について小田副会長より説明していただきます。

○（小田副会長） 二日市北小校区の小田です。よろしくお願いいたします。青少年指導員会のこれからの活動についてご説明いたします。

今年は新型コロナウイルスの影響により、あらゆる場所で人が集まることが制限され、学校も休校になり、子どもたちの姿も極端に減りました。また、指導員としても、密を避けられないということで教育講演会や視察研修を中止しているところです。

特に今年は、活動ができない中、新しく青少年指導員になる方も多かったため、活動を知る機会をつくり、知らせなければいけないということで、初めて新人研修を行いました。新人研修では、青少年指導員の活動を整理することで、新人だけではなく私たち役員や幹事も大変勉強になりました。

また、集まることができない中、生きた情報がなかなか手に入らないということで、今年から正式にコミュニケーションアプリ LINE を活用することにしました。LINE グループをつくって情報共有を図ることで、幹事会だけでは説明が足りなかった内容や緊急の用件、議事の事前確認をすることができるようになりました。そのことで幹事会の運営等もよりスムーズになりました。市の事務局にも LINE グループに入ってください、大変感謝しております。これからもぜひ情報共有の輪の中に入れていただけるとありがたいです。

しかし、LINEに限らず、対面ではない情報ツールを使う難しさも感じています。情報の伝え方、正確に何を伝えたいかはっきりさせることは大人でも難しいと思います。

先日小学校であった事例ですが、夕方から子どもが行方不明になったという連絡が学校からありました。行方不明になったという連絡だけで、私たちにどう動いてほしいのか分からず、結局、各自で探すことになりました。大事には至らなかったのですが、恐らく対面でしたらすぐに伝わった話だけに、文面で伝える難しさを大人も学んでいく必要があると感じています。

私たち指導員も、パトロールの際、コロナ禍での対面というのは難しくなっています。現在、パトロール中はマスク着用、少人数での巡回、3密を避けるといった対応をしています。新しい状況に対して、できないから諦めるのではなく、何かできることはあると思っ

ていろいろなことに取り組んでいかなければ、子どもたちを守れないと思います。今後も、筑紫野市におかれましては、子どもたちを地域で見守っていくためにご尽力いただき、私たちもできる限りの活動をしたいと思っておりますので、私たちの活動へのご理解、ご協力のほどを何とぞよろしくお願いいたします。

以上で活動報告を終わらせていただきます。

○（事務局） ありがとうございます。

青少年指導員とはという基本的なところから活動の最新の状況、そして今日的な課題まで具体的にお示しいただきました。校区ごとの取り組みも含めまして、皆さん総出演での、ぜひいたくなご報告をいただいたように思っております。あっという間の30分でした。

それでは、質疑応答、意見交換に入っていきたいと思えます。私から報告内容を踏まえてご質問させていただきます。盛りだくさんで何かから聞いたものかと思っておりますが、まずシンプルに、指導員として活動していてよかったと思うこと、それからやりがいについて聞いてみたいと思えます。

では、トップバッターを日永田副会長にお願いしてよろしいですか。

○（日永田副会長） 日永田です。

私が特にしてよかったなと思うのは、成人式等で見回りに参加するわけですけど、成人式を迎えた子どもたちから「おいちゃん、成人式迎えたよ」と逆に声をかけてもらったときは何とも言えない気持ちになります。

それから、私自身はスポーツを通じて青少年育成に努めておりますので、その子どもたちが小学校、中学校と活動の場を広げていったとき、成長の手助けをさせてもらってよか

ったなと感じます。

それから、先ほど述べましたように、地域連携の中で、吉木小学校の子どもたちと、そうめん流しや門松づくりなどのいろいろなことをしているわけですが、その際、生涯学習課の担当の方ならびに御笠コミュニティセンターの職員の方にそれぞれ協力をいただいて活動ができるということを非常にうれしく思っております。これからもそういう協力をいただきながら、よりよい活動をしたいと思っています。

○（事務局） ありがとうございます。長く関わっていただいているからこそそのご意見を聞けたように思います。ありがとうございます。

では、もうお一方、同じ質問で申し訳ないですけども、指導員として活動してよかったと思うこと、やりがいなどということで、長野さん、お願いしてよろしいですか。

○（長野会員） 二日市東小学校区の長野といいます。

私も今、日永田さんが言われたのと同じで、パトロールなどの活動の中で顔見知りになった子どもたちがいろんな機会に会うたびに声をかけてくれる、そういうときに本当に青少年指導員をしていてよかったなと感じます。今後も、こういう活動を通じて子どもたちや地域と連携を深めていきたいと思っています。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。お二人から地域の連携を含めたご感想をいただきました。

少し内容が重複するかもしれないですけども、長く関わっていらっしゃるので、どういふときに子どもたちの変化や成長をお感じになるのか、お伺いしたいと思います。

中川さん、いかがでしょうか。

○（中川会員） 私は筑紫小学校区で長年フットベースボールの取り組みをしているんですけども、この中であった成長を感じることをいくつか話したいと思っています。

最初に、雨で大会が中止になったことがあったんですね。中止だからその年はないはずだったんですけど、校長室に、どうしても大会をやってくれということで子どもたちが押しかけました。11月の大会が中止になって、卒業間際の2月に開催したのもものすごく寒かったんですけど、子どもたちの行動力というのはすごいんだなと思いました。校長先生に開催するようにみんなで訴えて、その思いが通じたということでした。

もう一つは、大会の中でのことですけど、下級生が泣いているんですよ。何で泣いているんだとじっと様子を見ていたら、勝って6年生を送り出したかったということなんですね。そういうふうな関係を構築することが目的の一つでもありますので、私たちとして

は開催して本当によかったなと思いました。

それから、大会が盛り上がり過ぎて、選手も熱くなる、保護者も熱くなるで、これは目的から外れていっているのではないかということがありました。どうしたらいいかなということで、選手の応援の連携とか守備や攻撃の連携とか保護者の応援マナーをよくしようということで、フェアプレー賞をつくったんです。それで大会の中でこれが一番名誉な賞だと位置づけてやったところ、選手の態度や応援マナーがものすごくよくなったんです。

その中で、いつもはそんなに強くなかったチームがフェアプレー賞をもらって、地域の人も子どもたちもすごく喜んだんです。次は何を目標にしようかということで、来年は優勝しよう決めて、6月から練習して11月開催の大会で本当に優勝しました。目標を持てば成功することができるといういい成功体験になって、保護者も子どもたちも本当によかったのではないかと思います。

そういうふうに、逆に、私たち青少年指導員が感動させてもらったり、成長させてもらっているような気がしております。すみません、ちょっと感情的になりました。そういうところです。

○（事務局） すてきなお話をありがとうございます。一口に27年と言うけれど、その中にいろんな出来事があって、いろんな思いがあってということが伝わってきました。フェアプレー賞は健全育成を具現したようないい賞だなと思いました。ありがとうございます。

もうお一方、お聞きしたいと思います。古瀬さん、いかがですか。

○（古瀬会員） 私たちは、下校中にお一人がしてくださって、あとは大体7時半から校区をずっとぐるっと回っていくんです。ただ、今はコロナの関係で一人ずつ回らせてもらってしまして、大丈夫でしたよとか、こんなことがありましたとか、連絡を取り合うことにしています。全員が活動しているのがうれしいなと思っています。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。全員で一丸となってというところですね。

子どもたちの変化、成長ということをお聞きしました。そういったものは皆さんがずっと重ねている変わらないものであると思う一方、青少年指導員の皆さんと移動市長室をするのが2回目ということですので、前回との違いを調べてきました。例えばですけども、指導員さんの定員が増えたというのもございますし、一番大きな変化は、青少年指導員さんがコミュニティ運営協議会の組織の中、それぞれ部会に入っていらっしゃることかと思っています。そこでの活動などをご紹介いただけたらと思います。

萩尾会長、お願いしてよろしいでしょうか。

○（萩尾会長） 私自身が青少年指導員になりまして一番感じていることは、子どもに対してあいさつできなかつた自分が変わったことです。あいさつして送り出した後、帰ってきた際の「ただいま」「おかえり」、そういう言葉のやり取りができるようになったことが私自身の最高の喜びです。

そして、天拝ブロックの青少年指導員会は和気あいあいと活動しておりまして、この5人のメンバーの中で、目の前におります大庭さんは消防団、コミュニティの中での防災防犯部会の部会長、もう一人、女性の白木さんという人は天拝坂体育委員会の事務局長で、いろんなところに参加して、力を発揮しています。私自身も横のつながりがたくさんできて、二日市コミュニティに行っても、冗談を言い合うような、気安い会話ができるようになりました。私が指導員になって20年くらいだと思いますが、これが私の実感です。

それから、幹事会の中でも、先輩からいろんなご指導をいただいておりますが、これは見方を変えれば、かわいがってもらっていると思っておりますので、これから先も、先輩、よろしくお願いします。終わります。

○（事務局） 内部でいろいろな人間模様があるようです。ありがとうございます。

コミュニティ運営協議会の組織の中に青少年指導員さんが位置づけられたことによる活動の変化ということで、ほかのコミュニティでの事例や、こんなふうに思いますということがあったら、追加でどなたかにご発表をお願いしたいと思うんですけど、いかがでしょうか。入江さん、いかがですか。

○（入江会員） 多分、ほかの小学校は小学校区で運営協議会があって、そこまで変化を感じられないかもしれないですけど、二日市などいくつかの小学校をまたいでいる運営協議会においては、その垣根がなくなっています。足りない人材があったら、その大きな枠の中から人のつながりを探していけるというのはすごく強みになっていると思います。

今、毎日のように萩尾会長と小田副会長、大庭さんはいらしているんですね。運営協議会の事務所には人がたくさん集って、そこから輪ができて、これがという断定的なものはないですけども、そういう人の絆が一番戦力となって、だんだん形に現れてきているのではないかと思います。

○（事務局） ありがとうございます。

今、コミュニティの中に小学校区が複数あるところというお話がありましたけれども、青少年指導員さんがコミュニティ運営協議会に位置づけられたことによる小学校区ごとの活動への影響とか、変化について教えていただきたいと思います。

今お名前が出ました大庭さん、いかがでしょうか。

○（大庭会員） 天拝小校区、大庭です。

今、会長と入江さんからありましたように、自分がいます二日市コミュニティは三つの小学校区と一緒に活動しています。青少年指導員は、二日市北小学校区と天拝小校区については二日市コミュニティに所属しています。その中に防災防犯部会がございまして、その中で少年補導員、消防団、交通安全指導員、そしてこれは特殊なんですけど、二日市コミュニティの中にあります21行政区それぞれの防災の担当、自治会長ではなく、防災のそれぞれの長の方が参加して、月1回の部会と事業を行っています。

今ありましたように、指導員だけの情報だと限られますが、部会、またそれ以外にコミュニティにはたくさんの団体がございまして、今言いましたように、事務局といいますか、コミュニティセンターに行けば、いろんな方と多くの情報が共有できます。中には、小田副会長からありましたように、行方不明等がございました。なかなか対応が難しいんですけど、その中でも関係団体と連絡を取ることができました。また、私たちのいる天拝小校区は自転車通学がございまして、天拝のほうから二日市中学校に行く中学生ですけど、ちょっとした接触事故があったり、マナーの問題があったりがいろいろ寄せられますので、そこを共有しながら、行政区や団体に報告したりして、少しでも改善するよというところでやっています。

それから、近年というか、私たちの校区では、防災メール・まもるくんでも出ていますけど、イノシシや猿が出てきております。防災メール・まもるくんに登録されてない方もいますので、そういった情報も共有しながら、少しでも安全に登校できるようにとところで、変化といいますか、コミュニティの中での活動ということで、ある意味、いろんなことに生かされているなと思います。

○（事務局） ありがとうございます。具体的な事例を挙げていただきました。本当によく分かりました。

ほかのコミュニティでの事例などがありましたら、後ほどでも構いませんので、ぜひご紹介いただければと思います。

では、次の質問に行きたいと思います。ご報告の中で、いろんな研修に大変力を入れていらっしゃるなと思いました。その中でも、最後の辺りでご紹介がありましたけれども、今年は初の試みとして新人研修に取り組みましたということです。この新人研修について、新しい取り組みということですので、もう少し詳細にお聞きしたいと思います。

原口事務局長さん、いかがでしょうか。

○（原口事務局長） 今年度は新人研修をさせていただきました。と申しますのは、今年度は新人の会員さんが10名ほどおられまして、折からのコロナ対策として、総会も書面決議、そして委嘱式も市長にご足労願って、本庁で私たち役員、萩尾会長が代表して授与していただきました。通常ですと、皆さん方で総会をして、委嘱式もやって、御前湯でささやかな懇親会を設けて、そのときに幹事さんと新しく入られた方とでいろんな今後のお話をさせていただく予定だったんですけど、そういったことが全くかなわなかったものですから、10名の皆さん方からも、私たちはなったけど、何をしたらいいのかということがございました。折から活動が縮小されていたものですから、密にならないようにということでパトロールもしばらくの間自粛したり、そういうことが続いて、新人の方々が委嘱を受けたもののどうしていいか分からないと。

そこで、会長にお願いして、今までの年間の活動をきちんと報告して、通常であればこういうことをやるんですよということを皆さん方にお伝えしました。もちろんそれぞれの校区の幹事さんを中心に地域活動をしていただきますが、それ以外に7月、12月の一斉パトロールや観月会、夏祭り、よど、教育講演会、視察研修等の全体行事があります。何月にはこれがありますよという説明をさせていただきました。それから、報告書等の事務的なものの説明をして、質疑をお受けして、多くは出ませんでした、こういう場合はどうなるんですかという質問をお受けしまして、何をやったらいいかを新人の方々に少し理解していただけた気がしております。以上です。

○（事務局） ありがとうございます。55の定数に対して10人を超える新しい方が入られたというのがまずすごいことだと思うんですけども、その方々のために、活動の安心につながるための研修ということでした。今回好評だったということですが、今後も続けていかれる予定などはございますか。いかがでしょうか。

○（原口事務局長） 基本は、その地区の幹事さんを中心に取りまとめていただいて、全体の事業も含めてやっていただくというスタンスです。というのは、活動の内容には地域性がありますから、なかなか物差しで測れないところがあります。山家小学校みたいに120人しかいないところとか、筑紫小学校みたいに1,000人規模の学校とか、いろいろ活動のスタンスが少しずつ異なりますので、できるだけ各校区でしていただきたいと。ただ、全体の行事の紹介は、総会のときにもう少し細かく紹介ができればいいかなと思われました。今回のような研修会は、コロナ対策として特別だと思っています。会長は毎年や

りたいと言っておられますが。

青少年指導員会が発足した当時からおられた超ベテランの大石さんが辞められたものですから、その穴が大きいんですね。そこに新人さんが入られましたが、特に筑紫小校区は5人中4人替わられて、みんな若手に替わりました。それでも皆さん方が一生懸命頑張ってくださいっているので、これを側面から応援していくのが私たちの使命であろうと思っていますので、できる限り来年からも続けていけたらと思っています。

○（事務局） ありがとうございます。それぞれの校区が主体性を持って活動されながらも、横のつながりでも支え合うということですね。ありがとうございました。

では、次に、もう一つ研修関係ということで、教育講演会についてもお聞きしたいと思います。本当に長く続けていらっしゃる特徴のある活動だと思うんですけども、子どもを取り巻く環境が変わる中でどういったことを心がけていらっしゃるかというところ、去年は特に感動の研修だったというご紹介がありましたので、その辺りの心がけていらっしゃるなどをご紹介いただければと思います。

小田副会長さん、お願いしてよろしいですか。

○（小田副会長） 教育講演会の目的は、子どもが置かれている現状と課題を明確にし、その背景を明らかにしながら、課題解決のための具体的な方法や活動の在り方について研修をすることです。

昔でしたら、リーゼントをしたり、盗んだバイクを乗り回したり、窃盗や喫煙をすることか、そういう目に見える非行が多かったんです。そのときはそれなりのいろんな人材育成というか、そういう形の講演会をしてまいりました。特に、困った子を見つけるのではなくて、困っている子を見つけて、その子たちの居場所づくりをしようということで講師を選んできました。

でも、近年は、全国的にSNSの問題があって、本当に痛ましい事件が起こったりしております。筑紫野市でも、小学校の先生が「SNSやオンラインゲームで問題が多発して、いじめとか課金とか問題があるんですよ」とおっしゃっています。私たちの子どもはもう大きくなっているので、驚きました。小さな子どもも成長した子どもも同じようなことをやっているんですね。そういう心配は親御さんも先生方もあるかと思うんです。

だから、ここ数年は、サポートセンターで、現場、生の声を聞きたいということで講師を選んで講演をしていただいております。そのときにはPTAに声かけをして来ていただいております。先ほどありましたように、結果、ものすごくよかったとか涙が出ましたと

いう感想をいただいております、そういう身につまされることをお話ししていただき、それを小学校のほうにまた持って帰っていただくという活動を講演会でしております。

- （事務局） ありがとうございます。先ほどの新人研修もそうですし、教育講演会もそうですけれども、そういったいろんな知識——SNSとかの関係は、行政の私たちもそういった見えないものを見抜く力をつけないといけないと本当に思うんですけれども、そういった知識に裏打ちされた、また教え育むという視点を持つての活動、それは単なる見守りとは違う、お名前にあるとおりの青少年指導員だなど本当に実感いたしました。

では、私が用意した質問の最後になるんですけれども、青少年指導員会として今後をどのように考えていらっしゃるかということ、もう一度萩尾会長のほうからご紹介いただければと思います。お願いいたします。

- （萩尾会長） 私たち青少年指導員会は、青少年の非行防止と健全育成を目的に活動しております。そして、筑紫野市の将来、未来をつくっていくのは今の子どもたちになります。その未来の筑紫野市を背負っていく子どもたちを守り育む、そんな思いで活動を行っております。また、地元筑紫野を愛し、筑紫野市で子どもたちが豊かに健やかに育つ、そんな環境をつくる一助になればと思っております。そんな思いは、青少年指導員会の立ち上げから今まで、そしてこれからも変わることはありません。

本日は、移動市長室で市長とお話ができる機会をいただき、筑紫野市の子どもたちのために少しでも力になることができるといふ思いがより一層湧いてきました。今後とも、青少年指導員会の活動にご理解、ご協力をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- （事務局） 会の今後について力強いお言葉をいただきました。ありがとうございます。

これまでのところで、市長から感想もしくはメッセージがございましたらお願いしたいと思っております。

- （藤田市長） 一言で申しますと、皆さん方の平素の青少年に対するご尽力、ご努力に感謝の一念であります。

その中で一つお話しさせていただきますと、105回になる移動市長室の中で、2回目に既に青少年指導員会にお邪魔をさせていただいた、なぜ2回目の移動市長室をそう設定したかということになるんですが、萩尾会長のお話にありましたように、将来、日本を背負って立つ、筑紫野市を背負って立つ、そして地域社会を背負って立つ子どもたちに対する皆さん方の指導、それも真心を込めた指導ですね。見回りもその一つです。いろんな情

報を追い求めて正しい指導をしていくというのは並大抵のことではないだろうと私は思っております。

今日ここにお邪魔させてもらって、2回目と違うのは、指導員の方の数が増えております。これは、それだけ充実した青少年の指導活動を高めていこうという意思の表れであろうと思っております。

学校だって、昔は黒板があれば授業ができたんです。ところが、今はタブレットですよ。オンラインですよ。インターネットですよ。そこにどう心を通わせていくかという。昔の教育とは違ってきたんです。

皆さん方は心を植え付けようとして見守りして、指導して、頑張っって将来の日本の国を背負う子どもたちを育てていらっしゃいます。貴重な活動であるということを今日もまじまじと聞かせていただくことができました。

さて、行政はということです。この中にも市議会議員もいらっしゃいますし、経験をした人もいらっしゃいます。議会制民主主義の中で、少子高齢化社会の子どもたちを健全に育てるのは学校教育だけではないんです。地域の教育、社会教育も非常に重要なものになってくるだろうと思っておりますので、コミュニティの話も出ましたが、いろいろな行政の組織の中で、できる限り、教育現場もしっかり、社会教育、地域教育もしっかり、行政は責任ある立場として支援をしてまいります。

萩尾会長をはじめ役員の皆さん方、青少年に関係していただいている皆さん方に心から感謝を申し上げますと同時に、本日この場で真剣に自分たちの活動を語り、これからの青少年健全育成についての思いを語っていただいた皆さん方に、私としては、今後とも、萩尾会長のお話のように、行政として惜しまず支援していきたいと思っております。皆さん方の大変貴重なご意見を聞かせていただく機会をさらに与えていただければ、なおありがたいと思っております。

少し話し過ぎましたが、私の総評とさせていただきます。よろしく願いいたします。

○（事務局） ありがとうございます。

そうしましたら、これで一旦、質疑応答、意見交換の時間を締めさせていただきますと思います。

続いて、筑紫野市の施策概要の説明を、秘書広報課の渡辺がいたします。

○（秘書広報課） それでは、お時間をいただきまして、筑紫野市の施策概要についてご説明をさせていただきますと思います。よろしく願いいたします。

市では、市民の皆様になめていただく税金などを基に、様々な取り組みを行っているところです。初めに、市の予算についてご説明いたします。

こちらは令和2年度9月補正後の歳入予算の内訳です。総額は450億1,302万6,000円。市税の占める割合が30.2%、金額は約136億円です。グラフのオレンジ色の部分が市が自主的に調達できる自主財源、対する緑色の部分が依存財源です。新型コロナウイルス感染症の関連で国や県からの支出金が約208億円計上されています。

続いて、歳出予算の内訳です。総額が450億1,302万6,000円。一番大きな割合を占めている民生費は、主に子どもや高齢者などの福祉に使われるお金です。予算の34.7%を占め、その額は約156億円です。また、特別定額給付金に関する事業費などで総務費に約139億円が計上されています。

続いて、市の最上位計画である総合計画についてご説明いたします。

市では、目指すまちづくりの姿を明らかにし、総合的、計画的に市政を運営するため、総合計画を策定しています。第6次総合計画は令和2年度から5年度までの計画です。その中で、筑紫野市の将来都市像を引き続き「自然と街との共生都市 ひかり輝くふるさとちくしの」とし、継続して目指すこととしました。

この将来都市像実現のための政策として、「行財政改革」「産業・雇用をつくる」「生活をまもる」「共助社会づくり」「未来をつくる」の五つの政策を柱としてまちづくりを進めています。

さらに、総合計画では五つの重点施策を掲げています。

まず、地域包括ケアシステムの推進。地域包括ケアシステムは、高齢者の日常生活の支援や医療などのサービスを地域に関わるみんなで連携して提供していく仕組みのことです。これらの取り組みを推進し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくりを目指してまいります。

続いて、地域コミュニティによるまちづくりです。各地域のコミュニティ運営協議会と連携しながら、地域防災や地域福祉、教育など各地域の課題と特色を踏まえた地域コミュニティによるまちづくりを深めてまいります。

次に、高尾川、鷲田川の浸水対策です。平成27年度から工事が進められてきた高尾川地下河川は、6月から暫定的に運用を開始しており、7月の大雨でも浸水被害を防止するなど安心・安全のまちづくりに役立っています。

次に、子育て支援と教育環境の充実です。誰もが安心して子どもを産み育てることがで

きるまちづくりを目指して、待機児童の解消や施設の整備などに取り組んでまいります。

最後に、筑紫駅西口土地区画整理事業。この区画整理事業に併せて都市計画道路筑紫原田線の整備を進めています。美しが丘北から西鉄筑紫駅へ連絡する道路で、市民の皆様の利便性向上のため、早期開通を目指して取り組んでいるところです。

これら五つについては、特に力を入れて取り組む重点施策として成果の向上を目指してまいります。

最後に、市の事業の中で皆さんの活動に関連するものをいくつかご紹介いたします。

まずは、筑紫野市青少年指導員会補助事業、予算額が9万円。青少年指導員会に対して補助を行うものです。

続いて、青少年指導員事業、予算額が159万3,000円。会員の皆様の活動に対して謝金をお支払いするものです。

次に、筑紫野市青少年育成市民会議補助事業、予算額が20万円。指導員会さんも加盟されている青少年育成市民会議に対して補助を行うものです。

続いて、成人式事業、予算額が149万2,000円。今年度は、コロナの影響もあり、規模を縮小しての開催となりますけれども、例年、皆様のご協力をいただきながら成人式を実施しているものです。

最後に、青少年育成事業（BGレンジャー）補助事業、予算額が37万円。地域で青少年育成に取り組む団体に対して補助を行うものです。

これらをはじめとする様々な事業を基に青少年の健全育成を推進してまいります。

以上で施策概要についての説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○（事務局） ありがとうございました。

それでは、最後になりますが、市長からお礼のごあいさつをお願いしたいと思います。

○（藤田市長） そうですか。先ほど少し申し上げましたが、皆さん方のご意見を拝聴させていただいて、皆さん方の体験談、青少年指導員としての活動の中からのじみ出る実体験のお話を聞いていると、本当に真剣に取り組んでいただいているんだなという実感が伝わってきて、今日は本当にうれしく思いました。

同時に、コロナ禍の中、いつこれが解決するかまだ分かりませんが、青少年指導員の方々においても、しばらくは今までとは全く違った活動がまだ続くであろうと思っております。こういう時期ですので、青少年の健全育成を重んじた活動も、皆さん方の健康が第一でございます。健康に留意される中で、なお一層、未来を担う子どもたちの健全育成に

努めていただくことを心からお願い申し上げて、私のお礼のあいさつに代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

○（事務局）　ありがとうございました。

それでは、これもちまして、令和2年度第6回、通算第105回になります移動市長室、閉会としたいと思います。

萩尾会長をはじめ本日ご参加の皆さん、事前の準備から本当にありがとうございました。